



今どきコラムー45

中国雑談

EU 商会の懸念

在中国欧州連合(EU)商工会議所が去る 5 月 31 日に発表した景況感調査の報告書では、回答を得た企業のうち、50%を超えるヨーロッパ系企業の 2016 年間売上高は 2015 年を上回っている。特に情報技術、自動車、機械設備、化粧品、小売や環境保護産業が好成績を収めた。2016 年中国における税引前利益が前年同期比 70%~100%上昇した企業もある。ただし、同調査結果によれば、昨年大半のヨーロッパ系企業の在中業務が改善されながらも、「これからの在中業務は厳しい経営環境に直面するのではないか」と多くが先行きに懸念を示した。

今回の調査結果は比較的に楽観的なものであるのに対し、これまで数年の調査結果はいずれも悲観的なものであった。しかし、このような状態は長く続かないことが今回の調査で明らかになっている。ヨーロッパ系企業は、「業務改善の主な原因は、2016 年年明けに中国政府が打ち出した短期金融貨幣及び財政刺激策で、中国が現在差し迫った必要のある構造改革を行った結果ではない」と打ち明けた。

今回の調査によると、外資系企業は煩雑な規制・規定、曖昧なためにしばしば勝手に解釈される法律、不公平政策の執行及び厳しいインターネット規制など、どれも昔からの根深い問題に直面している。同調査を受けた 570 社の企業の中で、約 50%の企業は「2016 年の状況はより苦しいものであった」と示した。

在中国欧州連合商工会議所には 1600 人のメンバーがいる。同商工会議所副会長の Mats Harborn 氏はこの調査報告書を発表する際、「今回の調査を始める前、『在中外資系企業の経営環境を改善しよう』と中国国務院が関連文書を公布した。しかし、調査を受けた外資系企業のうち、『今後 5 年間、外資系企業に対する規制が減っていく』と考える企業はわずか 15%にすぎず、40%の外資系企業は『実際には規制がさらに増えていく』と考えている」と指摘している。

因みに、近年、中国政府が腐敗撲滅に力を入れてきたことにより、その効果も著しく、腐敗問題に関するヨーロッパ企業の注目度は低下している。



現在のヨーロッパ系企業にとって、「曖昧な規定・法規」、「行政問題」及び「予測できぬ立法環境」は、中国における発展の三大障害と考えられている。

「この三つの問題は中国政府の規制管理に深く関わっている。世界銀行が毎年発表しているビジネス環境ランキングでは、中国の順位は 78 位であり、これもある程度今回の調査結果の裏づけだと言えよう。適切な規制管理とは何か？ 過剰規制の場合、企業の業績が落ち込みやすくなる。規制が中小企業に与える影響は大きい。何と云っても、中小企業がコントロールできる資源が限られているからだ。大手企業にとっても、時に規制条例公布が時間的にあまりに差し迫ったものであったため、企業にも影響を与えている」と Mats Harborn 氏は指摘する。

在中国欧州連合商工会議所の調査を受けた企業回答者は、「現状がすぐに変えられるとの望みはない。経営環境の規制障害によって毎年中国で 10%減収し、場合によってはそれ以上の損害を被らなければならない」と考えていることを半数近くの企業回答者が打ち明けている。

「中国現地企業の管理モデル、生産モード及び技術の成熟化、現地企業の台頭が地元消費者にも現地企業への自信を付けた。と同時に、在中ヨーロッパ系企業もさらに激しい競争環境に直面している」と同商工会議所の刘畅副会長は指摘している。

（『日系企業リーダー必読』編集長 陳言）